

Ⅲ. 日本作物学会紀事原稿作成要領

(2023年3月29日一部改正)

1. 原稿のフォーマット，コンピュータ入力および提出ファイルの形式
 - (1) A4版の用紙を用い，上下左右に3 cm以上の余白をとる．原則として1ページ24行，1行36文字とする．原稿3ページがおおむね2600字（刷り上がりの1ページ分になる）．原稿には，全ページの下部にページ番号を付し，行番号を通し番号でつける．
 - (2) 和文（図表・引用文献を含む）は見出し部分（ゴシック系フォントとする）を除き原則として明朝系フォントの全角文字とする．句読点は全角の“．，；：”などとし，カタカナ，“・？～％”も全角とする．ただしアルファベット，数字，/はすべて半角とする．
 - (3) 英文（図表・引用文献を含む）は半角文字とする．英単語が行をまたぐ場合，ハイフンは使用しない．
 - (4) ゴシックやイタリック，上付きや下付き，下線付きなどの文字は，これらの文字入力時に装飾を施す．特殊な文字や数式中の文字の修飾については，修飾を施した上で赤字とするのが望ましい．
 - (5) 原稿は，図表を含めて1つのファイルにまとめる．ファイルは，Microsoft WordのWord文書形式（docx）およびPDF形式の2種類を作成し，両者を提出する．
 - (6) すべて“ひらがな”・“カタカナ”の品種名は“**「**”で囲む．“ひらがな”・“カタカナ”で始まる（終わる）品種名は“**「**”で囲むことを推奨する．
2. 原稿の順序
 - (1) 略表題，表題，著者名，所属機関名および所在地，受理日などの脚注，要旨，キーワード，その後に英語で表題，著者名などを記載例のように書く．本文の緒言（緒言の見出しは省略する）は新しいページから始め，ついで，材料と方法，結果，考察，謝辞，引用文献の順に書き，図表の表題と注一覧，図，および表を添える．
 - (2) 著者が特に希望する以外，割付は一任する．
3. 表題・著者名・所属機関
 - (1) 略表題は著者名（姓のみ）を含めて30字以内とする．3名以上の著者のときは筆頭著者名“ら”とする．
 - (2) 表題は原則として主題と副題に分けない．分けるときの副題は“—○○○—”と記す．
 - (3) 所属機関名は下記の掲載例（i～v）のように書く．著者の所属機関が異なるときは全著者に“1），2）”などをつけ所属を記す．日本以外の所属機関名は略記し，国名を記す．所属のない著者は住所を略記する．転勤，卒業などで所属が変更した場合，“現在：○○○”の注記はしない．連絡責任者が移動したときは新所属を連絡責任者の欄に記す．英文の所属欄は旧のままとする．
 - i) 独立行政法人や国立大学法人は表記しない．

例．東京大学大学院農学生命科学研究科
農業・生物系特定産業技術研究機構，中央農業総合研究センター，花き研究所，東北農業研究センター
 - ii) 大学名のあとに研究科，学部名やセンター名を表記する．

例．九州大学大学院農学研究院
岐阜大学大学院連合農学研究科
岡山大学農学部
信州大学繊維学部附属農場
新潟大学フィールド科学教育研究センター
 - iii) センター化された試験場は，それに続く所属部や研究所を表記する．

例．富山県農林水産総合技術センター 農業研究所
熊本農業研究センター 農産園芸研究所
愛知県農業総合試験場 作物研究部
 - iv) 企業の場合は所属部あるいは研究所まで表記する．

例．○○(株) ○○部
○○ ○○研究所
 - v) 脚注の連絡責任者の表記は，連絡責任者：氏名，郵便番号，住所，TEL，FAX番号，e-mailアドレスの順とする．
 - (4) 脚注には必要なら研究費の出所などを続けて記す．しかし，“第○○回講演会で発表”の注記は不要とする．

原稿データの作成例（研究論文，研究・技術ノート共通）：

〇〇ら—普通ソバの開花の進行における夏型と秋型の品種間差（改行）
—————《1行あける》
普通ソバ（*Fagopyrum esculentum* Moench）個体内の開花進行における夏型品種と秋型品種の違い（改行）
〇〇弘康¹⁾・△△篤¹⁾・□久喜²⁾（改行）（姓と名の間にスペース入れない）
(¹⁾ 〇〇大学〇学部，²⁾ △△大学△△学系）（改行）
—————《1行あける》
年 月 日受理. 連絡責任者：〇〇弘康 〒xxx-xxxx 愛知県名古屋市〇〇区〇〇
〇xx-xx TEL xxx-xxx-xxxx, FAX xxx-xxx-xxxx, 〇〇@〇〇.ac.jp
本研究の一部は科学研究費補助金（No. 〇〇〇）によった。（改行）
—————《1行あける》
要旨：普通ソバ品種しなの夏そば（夏型品種）および宮崎在来（秋型品種）を夏栽培および秋栽培して，花房および小花房内の・・・

・・・開花数が少なく，開花期間が短くなった。（改行）
キーワード：普通ソバ，秋型品種，夏型品種，播種期，開花。（改行）
Differences in the Progression of Successive Flowering between Summer and Autumn Ecotype Cultivars in Common Buckwheat (*Fagopyrum esculentum* Moench)（改行）
Hiroyasu AOMORI¹⁾, Atsushi NAGANO¹⁾ and Hisayoshi YAMAGUCHI²⁾ (¹⁾*Fac. of Agr., 〇〇 Univ., Nagoya, xxx-xxxx, Japan;* ²⁾*Univ. of △△*)（改行）
Abstract: The common buckwheat cultivars 'Shinanonatsusoba' (summer ecotype) and 'Miyazakizairai' (autumn ecotype) were cultivated in pots with soil (sandy loam) in summer and autumn at 〇〇 University, Nagoya. The flowering position in the・・・

・・・subflower clusters, and flowers in a subflower cluster.（改行）
Key words: Common buckwheat, Autumn ecotype cultivar, Summer ecotype cultivar, Sowing time, Flowering.（改行，改ページ）

（注）

略表題，一は全角。

表題中の学名などのイタリックや著者の所属を表す上付きは装飾を施す。

ここは印刷時1ページ目左下の脚注となる。年月日の数字は投稿時は空白とする。

イタリック体，ゴシック体などは文字修飾を施す。

英文表題。

住所は連絡責任者のみ。

著者名英表記のFamily Nameの2文字目以降は印刷時にはスモールキャピタルとなるが，外国人でFamily Nameが分かりにくい可能性がある場合は，2文字目以降を赤字にする。

以上は印刷時一段組み。

緒言以降の記載例：

緒言（ただし緒言の表題は省略）

〇〇〇（段落の始めのみ全角1文字分下げる）

〇〇.

材料と方法（左によせる。見出しはゴシック系フォント）

1. 栽培方法

〇〇〇（材料と方法以降も段落の始めのみ全角1文字分下げる）

謝辞：〇〇

（注）

以降は印刷時二段組み。

緒言以降の見出し（小見出しは番号を付けて）はゴシック体とする。

付 表

SI 単位			倍数に関する接頭語		
量	名 称	単位記号	倍 数	名 称	記 号
長 さ	メートル	m	10 ¹⁸	エクサ (exa)	E
質 量	キログラム	kg	10 ¹⁵	ペタ (peta)	P
時 間	秒	s	10 ¹²	テラ (tera)	T
電 流	アンペア	A	10 ⁹	ギガ (giga)	G
温 度	ケルビン	K	10 ⁶	メガ (mega)	M
物質質量	モル	mol	10 ³	キロ (kilo)	k
光 度	カンデラ	cd	10 ²	ヘクト (hecto)	h
平面角	ラジアン	rad*	10	デカ (deca)	da
立体角	ステラジアン	sr*	10 ⁻¹	デシ (deci)	d
*補助単位			10 ⁻²	センチ (centi)	c
SI 単位と併用される単位			10 ⁻³	ミリ (milli)	m
			10 ⁻⁶	マイクロ (micro)	μ
			10 ⁻⁹	ナノ (nano)	n
			10 ⁻¹²	ピコ (pico)	p
			10 ⁻¹⁵	フェムト (femt)	f
			10 ⁻¹⁸	アト (atto)	a

SI 単位と併用される単位	
量	単 位 (記号)
時 間	分 (min), 時 (h), 日 (d), 年 (yr)
平面角	度 (°), 分 (′), 秒 (″)
体 積	リットル (L)
質 量	トン (t)
面 積	アール (a)

固有の名称を持つ組立単位の例

量	名 称	記 号	定 義
周 波 数	ヘルツ (hertz)	Hz	s ⁻¹
力	ニュートン (newton)	N	kg m s ⁻²
圧 力	パスカル (pascal)	Pa	N m ⁻²
エネルギー	ジュール (joule)	J	N m
仕 事 率	ワット (watt)	W	J s ⁻¹
電 圧	ボルト (volt)	V	W A ⁻¹
電気抵抗	オーム (ohm)	Ω	V A ⁻¹
温 度	セルシウス度 (degree Celcius)	°C	°C = K - 273.15
放 射 能	ベクレル (becquerel)	Bq	s ⁻¹
	キュリー (curie)	Ci	s ⁻¹
濃 度	モル濃度 (molar)	M	mol m ⁻³

作物学分野で使われる測定量の表示法の例

量	表 示 法	
収 量	[P]	g m ⁻²
	[A]	kg ha ⁻¹ , Mg ha ⁻¹ , t ha ⁻¹
葉面積比率		m ² kg ⁻¹
施 肥 量	[P]	g m ⁻²
	[A]	kg ha ⁻¹
植物体水分含量	[P]	g kg ⁻¹
	[A]	%
土壌水分含量	[P]	kg kg ⁻¹ , m ³ m ⁻³
光エネルギー強度		W m ⁻² , J m ⁻² s ⁻¹
光量子束密度, 光合成光量子束密度		μmol m ⁻² s ⁻¹
光合成, 呼吸速度	[P]	μmol m ⁻² s ⁻¹
	[A]	mg dm ⁻² h ⁻¹ , mg m ⁻² s ⁻¹
蒸 散 速 度	[P]	g m ⁻² s ⁻¹
	[A]	g dm ⁻² h ⁻¹

注) [P] は望ましい表示法, [A] は許容されるべき表示法を示す.

4. 要旨・キーワード

- (1) 要旨は改行しない。また図表や文献を引用しない。字数は 650 以内とする。
- (2) キーワードは 8 語までとする。

5. 英文表題 (Title)・要旨 (Abstract)・キーワード (Key words)

- (1) Title は、副題を除き、前置詞、冠詞、接続詞以外は大文字で始める。ハイフンで結んだ語については最初のアルファベットのみ大文字とする。

参考サイト (上記ルールと異なる結果になる単語もあります。その場合は、適宜修正してください。)

Title Case Converter: <https://titlecaseconverter.com/>

Capitalize My Title: <https://capitalizemytitle.com/>

Title のあと改行して著者名などを記載例のように記す。

- (2) Abstract の形式は日本語の要旨と同様とし、230 語以内とする。
- (3) Key words はキーワードと同順で記載し、いずれも大文字で始める。

6. 用語

- (1) 学術用語以外は原則として常用漢字を用い、平易、簡潔な文章になるよう努める。学術用語は作物学用語集や各学会制定の用語を用いる。暦年は西暦を使用する。
- (2) 図、表に統一し、写真は図とする。本文中は第 1 図、第 1 表のように記す。
- (3) 物質名は原則として塩酸、エタノールのように名称を記し化学式を用いない。ただし複雑な化合物など化学式を用いた方がわかり易いときはこの限りではない。
- (4) 略字、略号を用いるときは、最初にそれが出るところでアデノシン 3 磷酸 (ATP)、葉面積指数 (LAI) など、正式名称とともに記す。
- (5) 数字は原則としてアラビア数字を用いる。ただし“二、三の例”、“一部分”のように熟語となっている数字は漢字とする。1,000 のように、位取りの“,” は入れない。
- (6) 単位表示は原則として SI 単位を用いる (付表、理科年表:丸善, SI 単位活用辞典:日本規格協会などを参照)。例: g m^{-2} (収量, 施肥量), $\mu\text{mol m}^{-2} \text{s}^{-1}$ (光合成, 呼吸速度), $\text{g m}^{-2} \text{s}^{-1}$ (蒸散速度), L (リットル), min (分), h (時), d (日), g g^{-1} , g kg^{-1} , g L^{-1} , mL L^{-1} (濃度) が望ましい。ただし例えば収量などを, $\text{kg}/10 \text{ a}$, kg/a , t/ha , g/m^2 などと表記することはさしつかえない。数字と単位の間、複数の単位が列記される場合 (マルチ単位) は単位と単位の間を半角空ける。ただし、全角指定の%, °C, ° と数値の間には半角は空けない。 $\text{g H}_2\text{O g}^{-1} \text{FW}$ や g N m^2 等のように、単位の中に測定対象を入れない。
- (7) 本文中における項目細別記号は, 1, 2, 3, …; (1), (2), (3), …; ①, ②, ③, …; i, ii, iii), …; a, b, c, … の順序とする。すべての細別項目の表題はゴシック体とする。
- (8) 属名、種名はイタリック体とし、命名者や var. などの語はローマン体とする。

例: *Setaria italica* Beauv. var. *germanicum* Trin.

7. 引用文献

- (1) 記載順序は筆頭著者の姓のアルファベット順とする。同一筆頭著者 (単独名を含む) のものは年次順とする。同一筆頭著者で同一年次のもは年次の後に a, bなどを付す。
- (2) 和文文献では姓と名の間を開けない。英文文献では姓以外はイニシャルにする。同一著者、表題が続くときでも略さない。
- (3) 雑誌名の略称は ISDS 誌名略記法リストによるが、各学会で慣用されているものはそれによる。なお、引用文献における雑誌名称の略称表記は、「雑誌名称の略称表記」を参照の上、正確に記載する。不明な場合は編集委員会に問い合わせる。日本作物学会紀事の英名は Japanese Journal of Crop Science (Nippon Sakumotsu Gakkai Kiji), 略称は日作紀 Jpn. J. Crop Sci. とする。ただし 45 巻 (1976 年) までの英名略称は, Proc. Crop Sci. Soc. Japan を使用する。
- (4) 本文中の文献引用形式は、例えば、長南・松田 (1989), (Turk and Turk 1988), (Hall ら 1961a, b, 田中ら 1963), のようにし、2 つ以上同時に引用する場合は発表年次順に記す。
- (5) 試験成績書、私信などは引用文献の中に入れて、本文中の引用の直後に“(注:○○○)”と続けて記す。
- (6) ホームページに掲載された情報など引用する場合には、URL の直後に“(20xx 年 xx 月 xx 日閲覧).”と続けて記す。

8. 図表

- (1) 図表は統計処理に関する記述を含むことが望ましい。

引用文献記載例：

(雑誌の場合)

松崎守夫・豊田政一 1996. コムギ登熟期の気象条件と粉のアミログラム最高粘度. 日作紀 65: 569-574. (改行) (2行目以降はインデント指定で全角2文字程度字下げする. 字下げにスペースを使わない)

Narcio, J.O., Hattori, K. and Wada, T. 1996. Histological observation of callus formation in mungbean (*Vigna radiate* (L.) Wilczek) cotyledon culture. Jpn. J. Crop Sci. 65: 663-671. (改行) (□は半角のスペース)

(論文集の場合)

長南信雄・松田智明 1980. 細胞・組織の観察. 北條良夫・石塚潤爾編, 最新作物生理実験法. 農業技術協会, 東京. 1-23. (改行)

Shepherd, K.W. 1973. Chromosomal control of endosperm protein in wheat and rye. In Finlay, K.W.C. and Shepherd, K.W. eds., Proc. 3rd Int. Wheat Genetics Symp. Butterworths, London. 86-96. (改行)

(単行本の場合)

スネディカー, G.R.・コ克蘭, W.G. 1967. 統計的方法 原書第6版. 畑村又好・奥野忠一・津村善朗訳. 岩波書店, 東京. 394-416. (改行) (□は全角のスペース)

Turk, J. and Turk, A. 1988. Environmental Science. Fourth edition. Saunders College Publishing, Philadelphia. 1-712. (改行)

(学位論文の場合)

浜地勇次 1991. ビールオオムギにおける耐湿性品種育成のための遺伝・育種学的研究. 九州大学学位論文 (国立国会図書館, 博士論文目録 91-J-532). (改行)

Reeder, J.D. 1981. Nitrogen transformation in revegetated coal spoils. Ph.D. diss. Colorado State Univ., Fort Collins (Diss. Abstr. 81-26447). (改行)

(注)

カンマ, ピリオド, コロン, セミコロンとハイフンは, 日本語文献, 英語文献とも半角文字とする. 2行目以降の字下げにスペースは使わない. イタリック体などは入力時に修飾する.

ページ数は引用箇所.

編集が一人のときは ed.

多数箇所の引用は全ページ.

(2) 図表の表題, 図の縦・横軸の説明は和文とする. 図表の表題には最後に “.” を付す. 縦軸の説明は軸に沿って下から上へ横書きする.

(3) 図表の内容の説明や注は, 図では表題に引き続き, 表では表の下に記載し, 最後に “.” を付す. その場合 “注” と記さなくてよい. 本文をみなくても図表の内容がある程度わかる説明や注にする.

(4) 図表は片段分または左右両段に入るような大きさとし, 中間的な大きさにしない. 図を囲む枠はつけない.

(5) 表題と注は原図中にも記入しておく. 余白に第○図, 第○表, 縮尺または片段・全段の指定, カラー印刷の場合はカラーとの指定, 連絡責任者名を記入する. 複数の図表を1ページに含めてもさしつかえない. モノクロ印刷とする図表・写真(画像)はモノクロで作成する.

(6) 図表中の文字, 数字, 記号などは明朝系フォントを用い, ゴシック体, イタリック体, 太字は特に必要とするとき以外は使わない. 縮尺の程度による線の太さ, 文字, 記号の大きさの変化に注意し, 1ポイント = 0.35 mm として, 印刷時に, 図表の文字・数字は5ポイント以上となるよう配慮する(5ポイント未満では著しく判読しづらくなる).

(7) 表は横線のみを使用し, 縦線は使用しない.

(8) 図表は本文中に入れない. 挿入位置は原稿右欄外に赤字で指定する.

9. 脚注

(1) 著者名と図表の注に使用する記号は半角の “*, **, #, 1), 2)・” などとする.

10. 採択決定後の送付ファイルについて

(1) 本文の送付ファイルは Word 文書形式ファイル (docx) とする.

(2) 図はベクトル（ベクタ）形式*を原則とする。

* 拡大しても線や文字がギザギザにならない形式で，版下作成に最適。

Excel または Power Point で図を作成した場合は，それぞれの標準形式（xlsx, pptx）でファイル保存する（Windows, Mac とも使えるやり方）か，拡張メタファイルとして Word に貼り付けて保存する（Windows のみ）。その他のソフトで図を作成した場合は，ベクタ形式の画像として Word に貼り付けて保存する（推奨）かベクタ形式でファイル保存する。ベクタ形式の作成ができない場合は，TIFF 形式とする。

(3) 表は原則として Excel で作成し，Excel の標準ファイル形式（xlsx 形式）で保存する。

(4) 写真（画像）は TIFF 形式または JPEG 形式ファイルが望ましい。

(5) 送付方法は電子メールの添付ファイルとする。

11. この原稿作成要領の改正は，編集委員会で起案し，評議員会で決定し総会に報告する。

12. ここに記載されていない事項については最近発行の日本作物学会紀事の例にならう。